

## 第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画（案）に対する意見公募の結果

### 1. 概要

#### (1) 募集期間

令和2年2月13日(木) から3月4日(水) まで

#### (2) 意見提出者

5名（意見総数21件）

### 2. いただいたご意見への対応状況

分類	対応状況	意見数
賛同	計画案全体に対して同趣旨及び賛同いただいたもの	7件
参考	今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただくもの	13件
修正	ご意見の趣旨を参考に計画案を修正したもの	1件
合 計		21件

### 3. 第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画(案)に対するご意見及びそれに対する市の考え方

○ご意見の内容により分類して掲載しております。

○ご意見について一部要約等を行っている場合があります。

#### (1) 計画案全体に対して同趣旨及び賛同いただいたもの

No.	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
1	鶴岡市のブックスタート事業を行なっている様ですが、私の家庭でも、子どもの7ヶ月検診時に絵本「いないいないばあ」(文:松谷みよ子、絵:瀬川康男)を頂きました。本を頂いたこともありがたかったのですが、何よりも赤ちゃん向けの絵本の選書基準としても大変参考になった記憶があります。	賛同	ブックスタート事業ではすべての7か月児とその保護者に絵本に触れる機会を提供し、家庭での読み聞かせのきっかけづくりとして行っております。 多くの絵本の中から、成長に合わせた絵本を選ぶヒントになるよう、今後も絵本の楽しみ方の冊子やおすすめ絵本リスト等を継続して配布してまいります。
2	ブックスタートの取り組みでは、絵本を1冊もらうことでそれをきっかけに絵本を買い揃えようという意識が生まれると考えられるし、おすすめ本リストがあることでたくさん本の中からどんな本を選んだら良いか困ることもないのでとても効果的な取り組みだと感じました。		
3	子どもが生まれる前に、これから親になる人たち向けに読書について話をする機会があるのはとても良いと思います。	賛同	ご意見いただきましたように、子どもが生まれる前、これから親となる方たちへの啓発も大切と考え、第2次計画では新たな取り組みとして行ってまいります。
4	個人的な意見ですが、読書とは社会活動する個人にとって「唯一の」学習方法だと考えていますので、本計画を拝見して大変うれしく存じます。第1次計画に盛り込まれた自動車文庫は、時々目にしていましたが、大変よい仕組みだと感激しました。第2次計画では、1次で整ったインフラの維持とその利用促進が謳われています。人が誕生する前から大人に成長するまでを想定して、段階ごとに課題を整理してある点はとてもよいと思います。	賛同	ご意見いただきましたように、本市は市域が広い本館だけではなく、藤島、羽黒、楡引、朝日、温海地域にあります5分館との連携と自動車文庫（移動図書館）の運行により、市民の皆様が身近に図書館を感じることが出来る環境を維持しております。 また、第2次計画では、第1次計画の成果と課題を踏まえ、「子どもの成長」に合わせ、その年代の子どもにどのような取り組みが必要かわかる内容といたしました。子どもに関わる大人が、わかりやすく、より有効な読書活動の推進となる計画としてまいります。
5	現状や課題、今後の事業が平易な文章で書かれているので、読みやすい。現状や課題を分析した上で、計画目標を策定されていることが読みとれた。	賛同	多くの皆様にご理解いただけますよう、読みやすく、またわかりやすい第2次計画の策定を目指しております。皆様により有効な計画となりますよう努めてまいります。
6	私は、子どもが読書をよくするようになるかどうかは育った環境の影響が大きいと考えており、本が身近にあることやそれを読み聞かせてくれる大人がいること、日常的に読書をする大人がいることが重要だと思います。親が日常的に本を読んでいる家庭の子どもは読書が当たり前のように生活の中にあるため、読書に対する壁がありません。 また、すぐ手に取れるところに本があることでちょっとしたときに本を読んでみようという気になると思います。	賛同	ご意見いただきましたとおり、子どもの読者活動の推進には、本が身近にあることや、それを読み聞かせてくれる大人がいること、日常的に読書をする大人がいることが重要だと考え、第2次計画の基本的方針に設定しております。 ①子どもの近くに本がある暮らし ②子どもの近くに本の渡し手がいる暮らし ③子どもの近くに読書活動を見守る人がいる暮らし 以上を計画の柱として、より良い読書活動を推進してまいります。
7	毎日、本に触れるという機会があることは大事だと感じている。		
8	さて、子どもの読書習慣の形成についての個人的な意見を述べさせて頂きます。子どもが中学校への入学時に、年齢的に少し難しい名著の文庫本を1作品分、市が一人一人に贈呈するのはどうでしょうか？ 私が提案するのはこの辺りの本です。 ・カラマーゾフの兄弟/フォードル・ドストエフスキー ・罪と罰/フォードル・ドストエフスキー ・人間失格/太宰治 敢えて年齢的には難しい本を無償で与えることによって、本格的な読書と出会うきっかけ作りや、子どもの学習意欲への目的意識の芽生えに繋がるのではないかと思います。予算が必要のため実現は大変難しい意見となってしまいますが、ご検討のほど、どうかよろしくお願いいたします。	参考	中学校入学時に、子ども達一人一人に本を贈呈することは難しいことですが、名著とされる本に出会う機会を設定していくことは必要と捉えております。 中学校においては、取り組み一覧のNO.31「学校での読書活動推進事業の実施」より、朝読書の時間等を充実させ、読書の楽しさに気づき、習慣づけを行う工夫を講じていきます。 また、すでに読書の楽しさを知り、読書に親しんでいる生徒には、更に様々なジャンルの図書を紹介し、その読書の幅を広げていくために、取り組み一覧NO.29「青春の煌めき文庫(YAコーナー)の充実」をはじめ、新たな取り組みを含め充実させていきます。

No.	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
9	<p>【第2章6計画の数値目標について 13p】 第1次の推進計画の数値目標にありました「朝読書、読みきかせ等全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合」が、2次では項目から消えています。改めて必要と考えます。 理由は、学校が多忙化している事から、一斉読書を止めたり縮小したりする学校が出てきています。しかし、読書活動が子ども達の学びの基礎を培い学力を伸ばすことは、文科省のデータでも明らかになっています。 また、子ども達の読書が盛んになったのも学校における一斉読書に拠るところが大でした。特に中・高校生の読書が「全く読まない」が増えている中で、例え10分でも学校で一斉読書は重要です。学校から一斉読書を意識して頂くためにも数値目標に入れる意味があると考えます。同時に学校に対してもアンケートで実態を調査する必要があるのではないのでしょうか。</p>	参考	<p>第1次計画の数値目標「朝読書、読みきかせ等全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合」については、朝読書も含め読書活動全般について調査した結果、小学校、中学校、高等学校ともに100%を達成いたしましたので、第2次計画の数値目標に設定いたしませんでした。 しかしながら、ご意見いただきましたように朝読書を含め学校における読書活動は重要なものでありますので、今後も調査を継続まいりますとともに、100%達成しなくなった場合には、再度100%達成に向けて取り組んでまいります。</p>
10	<p>数値目標が図書館での取り組みを中心に項目が挙げられていますが、学校での読書活動推進の為に、学校図書館の機能をアップすることが必要です。小・中学校図書館3校のうち3分の2の学校(大規模校以外)では、図書館の開館が2～3.5時間程度しか担当職員が図書館に関わらず、開館できない状態です。1日の多くが無状態となっている現実があります。子ども達が活動している間に終日開館できることを数値目標に入れて、学校図書館の機能を充実させることが、読書環境の改善になります。</p>	参考	<p>小規模の学校については、大規模な学校と比較して学校図書館の規模も小さくなり業務量にも差があることから、他の業務と兼務する形で学校図書館担当職員を配置し、運営にあつております。 担当職員が在籍しての開館は、限られた時間となっておりますが、休み時間や放課後については、図書委員の児童生徒が業務の担い手として活躍しておりますし、授業においては、担任がつくことで図書館を活用することが可能です。 学校図書館の機能を充実させるためには、学校規模に応じた人員配置のもと、校内研修や職員会議等を通じて、図書主任や図書担当職員を中心に、学校内の協力体制を確立していくとともに、担当職員の資質向上のために本市全体としても研修を行い、図書館機能の充実に努めます。</p>
11	<p>子どもの不読率の数値(平成25年度と30年度)を入れてほしいと思います。第1次の「家で全く本を読まない」と、2次の「1ヶ月間」では示すデータに矛盾があるかもしれませんが、1次で示した数値目標の実態を表記する必要があると思います。アンケート結果には出ていますので、可能かと思います。</p>	参考	<p>数値目標の「子どもの不読率」の項目に関しましては、第2次計画では子どもたちの読書活動について「どこで読んでいるか」ではなく、「子どもたちが学校や家庭、また学童保育所等、日々の生活の中で「本を読んでいるか」という実態について調査していきたいと考えております。 そのため第2次計画では、新しい項目として「子どもの不読率」を設定いたしました。 また、第1次計画の数値目標にあります「家での読書」についても、変わらず大切な要素だと考えております。今後も調査を続けていくとともに、子どもたちを取り巻く大人への啓蒙を含め、様々な事業を通して、より力を入れて取り組んでまいります。</p>
12	<p>家庭での読みきかせのアンケート結果を見ると、この5年間で家庭での読みきかせ「家族から読んでもらったことがない」が、各年代をトータルすると10.5%も少なくなっています。今日的な大きな課題です。 このことを数値目標にも掲げて取り組む必要があると思います。「家庭での読みきかせ」項目を起こし、「家族から読んでもらったことが無い」をゼロに近くしていく取り組みを期待します。</p>	参考	<p>ご意見いただきましたように、子どもたちの読書活動において「家庭での読み聞かせ」がとても重要であります。 しかしながら、読み聞かせに取り組める時期は、子どもが乳幼児、小学生時期が中心となるため、中学生・高校生も対象とした5年間の数値目標として設定するには、難しいと考えられます。 数値目標として設定はいたしません。家庭での読み聞かせは、今後も推進計画の重要な取り組みとして、取り組み一覧の「絵本の読み聞かせの実施」NO.5(0.1.2歳)、NO.11(3.4.5歳)に記載し、力を入れて取り組んでまいります。</p>
13	<p>【第3章 取り組み一覧】29p～ No.16とNo.32「学校図書館を活用した授業の実施」では、図書館を活用する授業を実現するには、学習単元の内容に沿った資料の充実と参考図書リストが欠かせません。 「図書館を活用した授業の実施」No.16とNo.32の内容の欄に付け足して、「そのために、学習内容に活用できる図書・資料の充実と単元参考図書リストの作成。」を付け加えれば、より具体的な方策が現場でも理解いただけるし、実施しやすいと存じます。</p>	参考	<p>ご意見いただきましたように、図書館を活用する授業を実現するには、学習単元の内容に沿った資料の充実と参考図書リストが欠かせません。 各教科において、本や資料などを使って調べる学習活動を行う場合には、課題に応じてどのような本や資料を選び、それらの中から必要な情報をどのように見つけるのかといった選書・検索の能力や、見つけた情報を分類・整理し、自分の考えを明確にしておくために引用したり要約したりする能力を児童生徒に身につけていく必要があります。 資料の充実については取り組み一覧のNO.14「小学校の読書環境の充実」で、リストについてはNO.25「おすすめの本リスト等の作成・配布」等により取り組みますとともに、単元参考図書リストは、学校間で共有し、不足な本や資料については市立図書館の団体貸出を有効活用し、学習資料の充実を図ってまいります。</p>
14	<p>小学校・中学校の推進計画の取り組みは、校長も図書館担当者も推進計画の冊子があることも気付かない実態もあります。学校内で共通認識されるために、各学校における「〇〇学校の子ども読書活動推進計画」を立案してはいかがでしょうか？その計画で、お互いの学校の特色ある取り組みを学び合う交流会ができれば更に効果的ではないのでしょうか。 これは、他市の例を参考にしたものです。 学校だけでなく、幼稚園・保育園でも具体計画をつくり、工夫して読書活動を進めているとのこと。 (簡単な1枚程度にまとまる形式で)</p>	参考	<p>小中学校においては、学校経営概要の中に、図書館教育、図書館経営計画等を記載し、児童生徒の読書活動の推進を計画的に行っております。既存の記載内容に、市の子ども読書活動推進計画の内容を反映させ、効果的な取り組みが展開されるよう働きかけをしてまいります。 また、学校だけでなく、幼稚園・保育園につきましても、子どもたちへの様々な読書活動が行われております。各園で行っている良い活動や計画等を活かせるように、ご意見を参考に今後の取り組みを検討してまいります。</p>

No.	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
15	<p>子どもの主な生活の場は、家庭、地域、保育園、幼稚園の他に学童保育所があります。学童には多くの子ども達が入所しています。学童保育所での読書活動が取り組めないでしょうか。放課後宿題をしたら「読書」とか、読みきかせをしてもらおう。また、夏休みなど1日いる場合には、読書タイムを設けるなど、学童の指導員や関係者から知恵をいただきながら進められればと思います。</p>	参考	<p>学童保育所では、図書コーナーの設置により、いつでも本を読むことができる環境を整え、行事等の際に紙芝居や大型絵本等の読み聞かせを行ったり、長期休暇中には読書タイムの時間を設けたりして、児童が本に触れる機会を設けております。</p> <p>学童保育所の利用人数が増える中、児童の「生活の場」としての学童保育所における読書活動は、ますます重要となります。今後、学童保育所において読書活動がより一層進むよう、学童の指導員や関係者の方々の意見を伺いながら、研修機会の創出や資料の充実のために市立図書館の団体貸出、自動車文庫（移動図書館）等を有効に活用していただくなど、充実させてまいります。</p>
16	<p>自分自身のことを振り返ってみて、高校生になって自分が学校図書館の本をあまり読まなくなった理由は、勉強や部活が忙しくなったこともありますが、小学校から持ち上がりで、人数が増えても保育園で一緒だった中学校と違って、高校では生徒も学校もまったく違う雰囲気です。図書室に入る勇気が出なかったということもあって思いました。1年生でも入りやすい雰囲気が学校図書館には必要だと感じました。</p>	参考	<p>ご意見いただきましたように、学校図書館は、子どもたちが日々通うことのできる一番身近な「本と出会える場所」であり、とても大切な環境のひとつであります。</p> <p>今後は環境整備とともに、取り組み一覧の「学校図書館利用オリエンテーションの実施」NO.23（小学生）、NO.34（中学生・高校生）として取り組み、さらにオリエンテーション等を充実させ、入りやすい雰囲気づくりも含め、より有効な環境づくりをいたします。</p>
17	<p>年代別のアンケート結果を拝見した私見を以下にまとめます。</p> <p><b>【小学校低学年児童】</b> どんな本がよいのかわからない、読みたい本がわからない子供が多いことから、両親や兄弟、教師が介入することで効果があると思われる。</p> <p><b>【小学校高学年児童】</b> 本を毎日読む児童が、低学年児童に比べ半減しています。絵本からほぼ活字だけの本に移行する初期段階で、読書への愛着が薄れる、もしくは活字だけの本を読むことが苦痛になる生徒が増えるのだと思います。活字の多い漫画（良書が多い）や挿絵の多い文庫を充実させ、推奨するものよいのではないかと考えます。</p> <p><b>【中学生】</b> 読書好きとそうでない生徒が二分してくる時期だと思います。多感な年代になってくるので、文学作品を読んで涙するなど、読書が大事な「何か」をこころの中に芽生えさせます。多くの生徒は初めての「受験」の準備に時間を使いますので、国語の授業での読書推奨の役割が効果的に思います。</p> <p><b>【高校生】</b> 「忙しくて時間がない」生徒が多いことから、自らの1日の時間の使い方を記録させ、本来なら読書時間に充てることができるはずの時間を意識させることが大事だと思います。また、スマホを手にする時期でもあり、ゲームに依存する生徒も多いのではないかと考えます。</p>	参考	<p>子どもの年代に合わせた貴重なご意見をありがとうございます。この度の第2次計画は、子どもの成長に合わせて取り組める計画を目指しております。</p> <p>小学校低学年においては、親子で学校図書館から一緒に本を借りて、家庭で一緒に読み、感想を書くという「親子読書」という活動に取り組んでいる学校があります。</p> <p>さらに、小学校、中学校、高校において、「先生のおすすめの本」といった、教師が子どもたちに読ませたい本を紹介する取り組みを通して、子ども達が発達段階に応じて良書を選択できるような工夫が講じられております。</p> <p>ご意見いただきましたように、ほぼ活字の本へのスムーズな移行のために有効な本を備えたり、国語の授業で読書を推奨していったりするなど、子どもたちの成長段階に合わせた読書の楽しさや良さに気づき、習慣づけるための取り組みを今後も充実させていきます。</p> <p>また、高校生を含め現代の子どもたちの取り巻く環境の大きな変化のひとつに、スマートフォンのような携帯することのできる情報通信手段の普及や多様化があります。情報収集に関しても、インターネットによる利点を伝えていくとともに、本を活用することの有効性をさらに伝えていく必要があると考えます。</p> <p>これらの取り組みを推進していくために、大人ができることの研修機会として、取り組み一覧のNO.39「子どもの読書活動を推進するための講座の開催」に記載しました講座等の開催にも力を入れていきたいと考えます。</p>
18	<p>子どもの読書習慣は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 読書の技術を身につけること</li> <li>2) 読書による報酬（喜び、感動、知識の獲得による充足感）を感じられること</li> <li>3) 本にはお金をかけてよいことを理解することにより定着すると考えます。</li> </ol> <p>2) は取り組みNo.18, 29, 32などの活動に盛り込まれると思います。特に、読書で得た感動や知識は、友人や家族などに内容を披露（発表）すると、より効果的に脳に定着するとともに充足感を感じると考えます。そのような脳に読書による報酬を与える機会が作られることを希望します。大事なことは、親御さんが本への支出を必要以上に緊縮させない意識を持つことが大事と考えます。</p> <p>3) は取り組みNo.1, 20, 23, 34, 39, 40など、親御さんやコミュニティのおとなへの啓蒙や利用しやすい図書館の存在を知ること、子どもも安心して読書に親しんでいけると考えます。</p> <p>1) は取り組みNo.32に含まれるように思いますが、十分ではありません。幼児や小学生は本の挿絵をまねて落書きしたり、中学生はどんな文章に線を引いたり欄外にメモをしたりして、登場人物の感情の動きを再度追跡したり、知識を整理しながら「読み込む」という技術を身につけるトレーニングが必要です。</p> <p>通常は学校教育の中で身につけるものですが、この取り組みを強化することは非常に大事です。読み方の基本ができていないと、読書の効果を理解できないからです。図書館で借りてさっと内容をみて、本当に興味がある本であれば、購入してペンで真っ赤にするのが必要です。</p> <p>そのためなら、図書館に新刊本をどんどんリクエストし、親には本に欲しい本をおねだりしてよいという社会をつくる取り組みがあれば必要だと思います。</p>	参考	<p>ご意見いただきましたように、知識を整理しながら読み込む等の読書の技術は、国語の時間を中心に各教科で育てていくものと捉えております。</p> <p>また、その力はコミュニケーションや感性・情緒の基盤ともなるものでありますので、引き続き子ども達への丁寧な指導が必要と考えております。</p> <p>また、ブックトーク等、読書による喜びや感動を他の人に披露する機会をさらに充実させると同時に、「本を読むこと自体が楽しい」という経験を子どもたちに与えていくことも重要であります。</p> <p>さらに、子どもたちへの読書活動の必要性や有効性を、親御さんをはじめ、子どもたちを取りまく多くの大人に知っていただくことが大切であり、第2次計画として力を入れていく取り組みのひとつであります。今後も資料を充実させ、頼れる図書館として、学校図書館及び公共図書館を有効に利用していただけるよう、より努めてまいります。</p>

No.	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
19	<p>図書は、小説やノンフィクションだけでなく、芸術関係も必要と思います。</p> <p>特に画集や譜面の充実もご考慮頂ければ幸いです。郷土の画家である今井繁三郎氏の絵画や土門拳氏の写真集など、庄内ならではの芸術作品に触れられることが、長期的観点から重要と思います。</p>	参考	<p>ご意見いただきましたように、図書には多様なジャンルがございます。郷土出身者関係資料の充実と、文芸作品だけではなく、幅広いジャンルの資料収集と触れる機会を持てるような取り組みをまいります。</p>
20	<p>親として、どのような本を子どもに薦めればいいのか、迷う事が多い。</p>	参考	<p>子どもの成長に合わせた選本の仕方を学べる機会の提供のため取り組み一覧のNO.39「子どもの読書活動を推進するための講座の開催」の推進に努めます。おすすめの本リストの作成・配布などについては、取り組み一覧NO.8「赤ちゃんと楽しみたい絵本リスト(0.1.2歳向)の作成・配布」、NO.25おすすめの本リスト等の作成・配布」等により、今後もより多くの方たちに周知してまいります。</p>
21	<p>具体的な事業内容について、「継続」「拡充」「新規」など記載されている方がいい。</p> <p>1次計画は実施場所という視点、2次計画は成長の視点のため、もしかしたら、記載が難しいかもしれないが、読み手としては、事業内容についての継続や新規性が記載されている方がわかりやすいと感じた。</p>	修正	<p>ご提案いただきましたように、具体的な取り組み一覧に、「継続」・「拡充」・「新規」を追記いたします。</p>